

群馬県沼田市

KAMA

KURA

DAI

鎌倉台遺跡

水資源開発公団沼田総合管理所管理用宿舎
新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1990

沼田市埋蔵文化財発掘調査団



群馬県沼田市

KAMA KURA DAI
鎌倉台遺跡

水資源開発公団沼田総合管理所管理用宿舎
新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1990

沼田市埋蔵文化財発掘調査団

序

群馬県北部地域の中心として栄えてまいりました沼田市は昭和60年11月の関越自動車道新潟線開通により、各種開発事業が計画され、実施されつつあります。特に関越道沼田インターチェンジ付近はその傾向が著しく、これに伴い埋蔵文化財の保護対策が急務となっております。

ここに報告いたします鎌倉台遺跡は、水資源開発公団が沼田総合管理所管理用宿舎を新築することになり、やむなく遺跡が破壊される部分について事前に発掘調査され、記録保存を実施したものであります。本遺跡からは、縄文時代前・中期の落し穴や土坑、土器等の貴重な資料が発見され、多くの成果を上げることができました。

調査によって得られた記録・資料は、郷土沼田市の歴史を理解していただく資料として、保護・活用していかなければならないと考えます。

最後になりましたが、発掘調査ならびに本書刊行にあたり、多大な御協力をいただきました関係諸氏・諸機関、発掘調査・整理作業に直接携われた方々に深く感謝申し上げる次第であります。

平成2年3月

沼田市埋蔵文化財発掘調査団

団 長 松 井 誠 二



例 言

- 1 本書は、水資源開発公団沼田総合管理所管理用宿舍新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 本遺跡は、群馬県沼田市高橋場町4934-1番地に所在する。
- 3 発掘調査は平成元年4月12日から4月18日まで実施し、整理作業は平成2年3月まで行った。
- 4 発掘調査は沼田市埋蔵文化財発掘調査団が水資源開発公団の委託を受けて行った。尚、調査組織は以下のとおりである。

団長 松井誠二（教育次長） 事務局長 藤井章二（社会教育課長） 調査担当 都丸章（同課文化財保護主事）・小池雅典（同課社会教育主事）・宮下昌文（同課主事）

- 5 本書の編集・執筆は宮下が行った。
- 6 本書に掲載した遺構写真及び遺物写真は、宮下が撮影した。
- 7 本調査にかかわる出土資料・記録資料のすべては、当調査団より沼田市教育委員会に保管が委譲され、沼田市文化財調査事務所収蔵庫で保管されている。
- 8 発掘調査及び報告書作成にあたり、下記の方々の御指導・御協力を賜った。
水資源開発公団奈良俣ダム建設所、沼田土建株式会社、群馬県教育委員会文化財保護課、水田 稔、石北直樹（順不同・敬称略）

凡 例

- 1 遺構平面図の北方向は全て磁北である。
- 2 遺構図中の水糸高は、海拔高である。
- 3 挿図の縮尺率はそれぞれスケールで表しており、落し穴・土坑1/60、出土遺物土器・石器1/3、一部の石器2/3とした。
- 4 遺物写真の縮率は同一ではない。
- 5 第1図は、建設省国土地理院発行の2.5万分の1地形図「沼田」を使用した。
- 6 第2図は、沼田市発行の沼田市都市計画図No.6を縮小して使用した。

目 次

序

例 言

凡 例

1	調査に至る経緯	1
2	遺跡の位置と周辺の遺跡	1
3	調 査 の 方 法	5
4	基 本 層 序	5
5	検出された遺構と遺物	5
6	ま と め	11

写 真 図 版

1 調査に至る経緯

水資源開発公団が奥利根地域の八木沢、奈良俣、戸倉（建設中）、及び平川（実施計画調査中）ダムの4ダムを統轄管理する総合管理所を、群馬県沼田市に設置し平成2年度より統轄管理されることとなった。これに伴い職員及びその家族用宿舎を管理所近くの沼田市高橋場町字鎌倉4934-1番地に建築する計画が持ち上がった。

平成元年4月、水資源開発公団奈良俣ダム建設所長から市教育委員会宛に当該地における埋蔵文化財の有無に関する照会があった。教育委員会では、分布調査の結果から宿舎建設予定地が埋蔵文化財の包蔵地であり、その旨を公団に伝えその保存について協議することとなった。

遺跡の範囲や性格を把握するため教育委員会が試掘調査を実施し、引き続き公団側と協議した計画変更は不可能であり、遺跡がやむをえず破壊される部分について、発掘調査による記録保存を行うことで合意が得られた。発掘調査は沼田市埋蔵文化財発掘調査団が公団側から委託を受けて実施することとなった。

遺跡所在地の字名は「鎌倉」であるが、小谷地を隔てた北東約600mに関越自動車道建設に伴い発掘調査された鎌倉遺跡（1980年・群埋文事業団調査）があり、別の遺跡であることから、区別するため「鎌倉台遺跡」と命名した。

2 遺跡の位置と周辺の遺跡

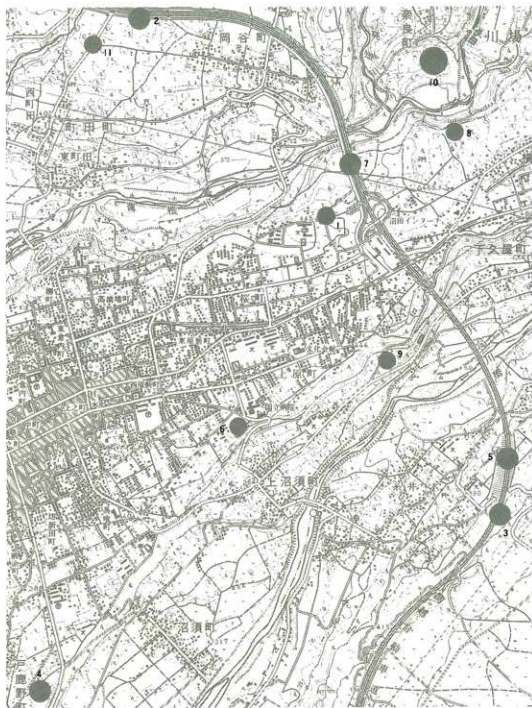
鎌倉台遺跡は、薄根川によって開析された谷地形を望む、沼田台地の縁辺に占地する。利根郡川場村を源流とする薄根川南岸にあたり、この川に注ぐ小谷地に南北をはさまれた微高地となっている。薄根川との比高差は23mを測る。遺跡地は畑地として利用されていた。

旧石器時代 旧石器を出土する遺跡は、関越自動車道建設に伴う発掘調査により三峰山南麓において集中して存在することが判明しており、多量の石器を出土した後田遺跡（利根郡月夜野町）が有名であるが、本市においては薄根川右岸の最上段に位置する戸神諏訪遺跡があげられる。

縄文時代 早期の遺跡は少なく、日影平遺跡、石墨遺跡、中棚遺跡（利根郡昭和村）で、押型文、燃糸文、条痕文土器が出土している。前期になると、利根川本・支流の段丘面上に広く分布が見られ、糸井宮前遺跡（昭和村）、中棚遺跡において大規模な集落跡が検出されており、中期の集落の寺入遺跡（沼田市石墨町）、下原Ⅰ遺跡（沼田市西原新町）がある。後・晩期の遺跡は少なくなる。

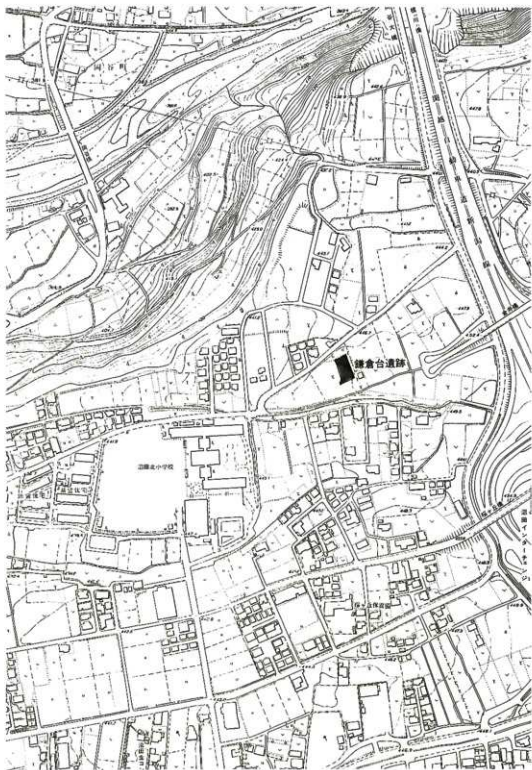
弥生時代 糸井宮前遺跡で中期の土器が出土している。後期の遺跡として、鎌倉遺跡、石墨遺跡、戸神諏訪遺跡、日影平遺跡など各地で集落がされている。特に、石墨遺跡では円形周溝墓が、日影平遺跡では環濠集落が検出されており注目される。

古墳時代 前期の遺跡として、石墨遺跡、戸神諏訪遺跡、清水遺跡（沼田市横塚町）、糸井宮前

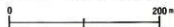


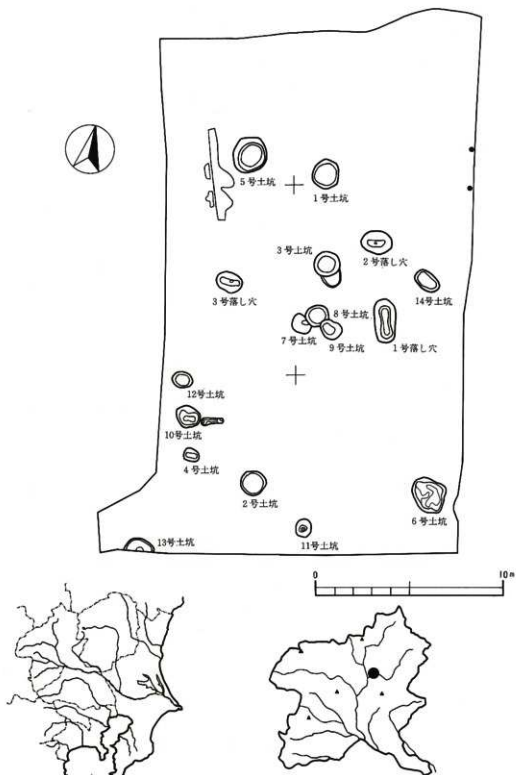
第1図 周辺の遺跡 (S=1:25,000)

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|----------|
| 1. 鎌倉台遺跡 | 2. 戸神園訪遺跡 | 3. 中橋遺跡 | 4. 日影平遺跡 |
| 5. 永井宮前遺跡 | 6. 下原I遺跡 | 7. 鎌倉遺跡 | 8. 清水遺跡 |
| 9. 追墓古墳 | 10. 奈良古墳群 | 11. 土塔原遺跡 | |



第2図 遺跡地周辺の地形





第3図 調査区全体図

遺跡などで古式土師器、石田川式土器を出土する住居跡が検出され、鬼高期の集落として石墨遺跡、古墳群として奈良古墳群などがある。

奈良・平安時代 集落として、石墨遺跡、戸神諏訪遺跡、土塔原遺跡、中棚遺跡、糸井宮前遺跡などがある。

3 調査の方法

試掘結果をもとに東側の合宿舎建設予定地部分について調査を行うこととした。重機により表土からローム層の直上まで掘削後、人力により精査、遺構確認を行った。検出された遺構、遺物については任意のポイントを設定して実測した。遺構平面図・セクション図・エレベーション図は1/10、調査区全体図は1/50で、平板・手取りを併用して行った。

4 基本層序

調査区は東から西方向に緩やかに傾斜している舌状台地上にある。調査区内の土層状況はほぼ水平に堆積している。土層観察は調査区東壁北寄りで行った。

- | | |
|-----------|------------------------------------|
| I層 黒褐色土 | 現耕作土。FP（榛名山二ッ岳軽石）を含み、粘性弱くバサバサしている。 |
| II層 黒灰色土 | FP 純堆積層。 |
| III層 暗褐色土 | 粘性強い。 |
| IV層 暗茶褐色土 | 黄褐色粒子を若干含む。ローム漸移層。 |
| V層 黄褐色土 | 関東ローム層。 |

5 検出された遺構と遺物

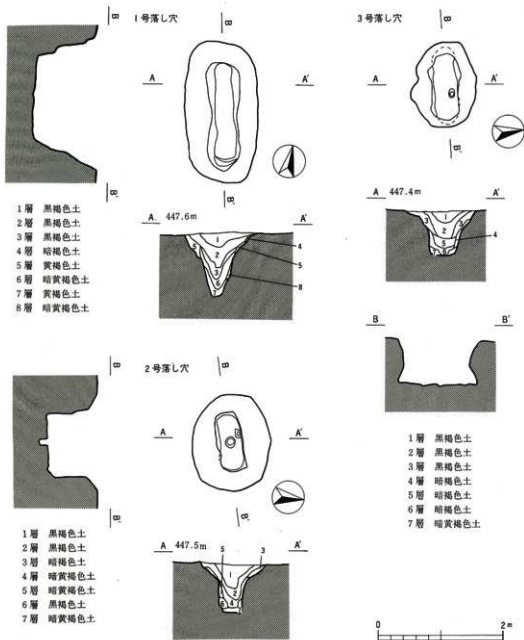
本遺跡からは縄文時代の落し穴3基と土坑14基が検出された。遺物については中期を中心に前期が若干見られるが総数は少ない。

1号落し穴（第4図）（形態）長楕円形。（規模）224cm×118cm、深さ98cm（遺物）縄文中期の鉢破片（第7図一1）。

2号落し穴（第4図）（形態）楕円形。（規模）153cm×127cm、深さ82cm（遺物）なし。底部中央に小穴1個。

3号落し穴（第4図）（形態）楕円形。（規模）135cm×105cm、深さ71cm（遺物）なし。底部中央やや北側に小穴1個。

1号土坑（第5図）（形態）楕円形。（規模）146cm、深さ51cm（遺物）中期の鉢破片2（第7



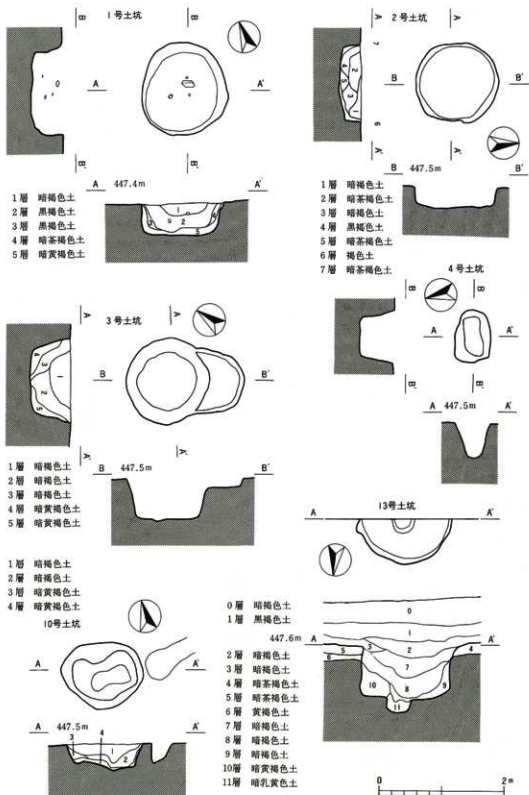
第4図 落し穴

図一2、3)。覆土上層に礫。

2号土坑（第5図）（形態）楕円形。（規模）133cm、深さ36cm（遺物）なし。

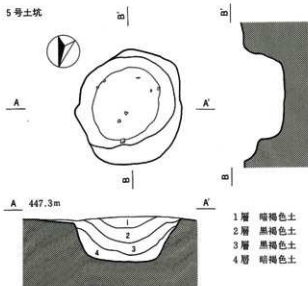
3号土坑（第5図）（形態）楕円形。（規模）139cm、深さ67cm（遺物）覆土中より黒色安山岩の剥片（第8図一14）。（切り合い）近世のものと考えられる土坑に南東壁を切られる。

4号土坑（第5図）（形態）不整形円形。（規模）84cm×58cm、深さ58cm（遺物）なし。

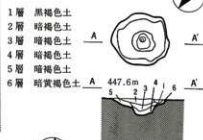


第5图 土坑(1)

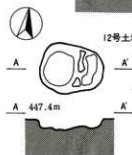
5号土坑



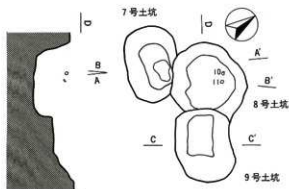
11号土坑



12号土坑



7号土坑

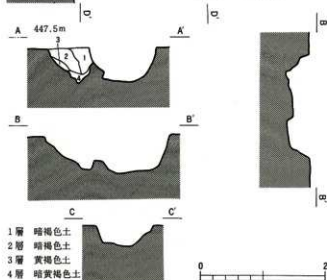


14号土坑

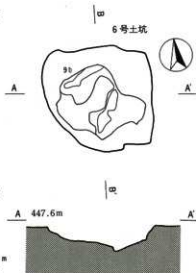


8号土坑

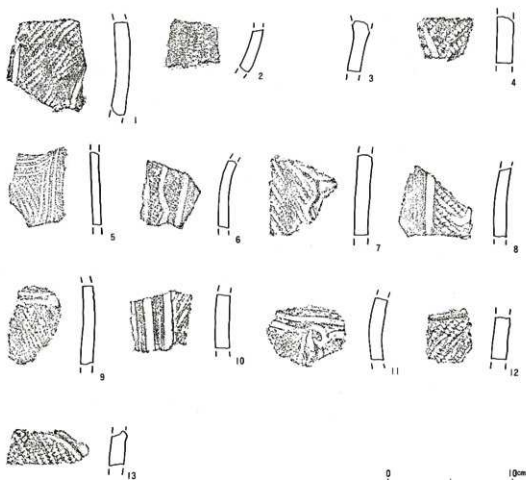
9号土坑



6号土坑



第6图 土坑 (2)



第7図 出土遺物（1）

5号土坑（第6図）（形態）楕円形。（規模）191cm×173cm、深さ69cm（遺物）中期加曾利E期鉢破片（第7図-4～8）。黒色安山岩の剝片（第8図-15、16、18、19）。チャートの剝片（第8図-17）。黒曜石の石鏃（第8図-20）。

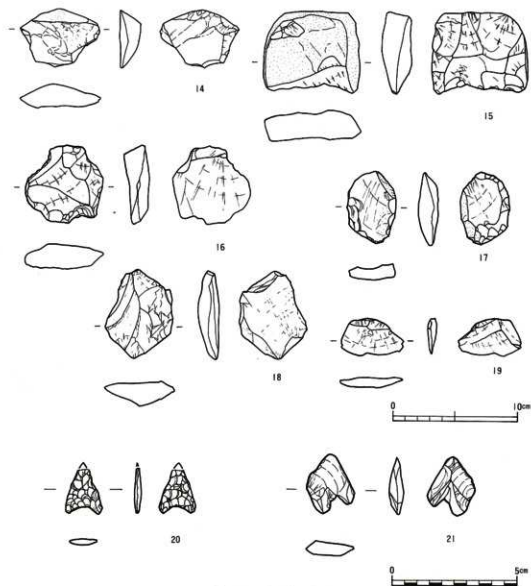
6号土坑（第6図）（形態）不整円形。（規模）214cm×177cm、深さ41cm（遺物）中期の鉢破片（第7図-9）胎土中に金雲母を含む。

7号土坑（第6図）（形態）楕円形。（規模）122cm×83cm、深さ57cm（遺物）なし。（切り合い）8号土坑に北東側を切られる。

8号土坑（第6図）（形態）楕円形。（規模）135cm×122cm、深さ54cm（遺物）中期の鉢破片（第7図-10、11）。（切り合い）9号土坑に南東壁を切られている。

9号土坑（第6図）（形態）不整円形。（規模）116cm×88cm、深さ34cm（遺物）なし。（切り合い）8号土坑を切っている。

10号土坑（第5図）（形態）楕円形。（規模）136cm×104cm、深さ42cm（遺物）なし。



第8図 出土遺物(2)

- 11号土坑(第6図) (形態)不整円形。(規模)94cm×82cm、深さ25cm(遺物)なし。
- 12号土坑(第6図) (形態)楕円形。(規模)103cm×79cm、深さ17cm(遺物)なし。
- 13号土坑(第5図) (形態)楕円形(推定)。(規模)148cm、深さ105cm(遺物)なし。遺構は調査区外の南側へ伸びる。底面中央に円形の穴あり。
- 14号土坑(第6図) (形態)長楕円形。(規模)134cm×82cm、深さ22cm(遺物)なし。
- 遺構外遺物 第7図-12、13は中期の鉢破片。第8図-21は黒耀石の剥片。

6 ま と め

鎌倉台遺跡の位置する沼田台地上は、小河川が東から西流して小谷地地形を形成し、その両側は微高地となっている(第2図参照)。河川の浸食が進行すると微高地は舌状台地を形成してくる。本遺跡はこの舌状台地の縁辺付近に立地している。調査では縄文時代の落し穴と土坑が検出された。この調査で気付いた点をいくつか挙げてみたい。

落し穴について

出土した落し穴3基の内、1号落し穴と2号・3号落し穴とは形態、規模、主軸方向がそれぞれ異なっている。1号落し穴は主軸を南北方向、規模は大きく、長楕円形を呈するのに対し、2号・3号落し穴は主軸を東西方向、底面にピットを有し、楕円形を呈している。

遺物は1号落し穴の覆土中から縄文時代中期の土器片が1点出土しているにすぎず、各落し穴の正確な年代決定はできないが、形態等の類似性から2号落し穴と3号落し穴はほぼ同時期に使用されていた可能性が高い。また、前後関係は不明であるが最低でも2時期にわたって縄文時代の狩猟場として存続していたと考えられる。

土坑について

遺物を伴う土坑は1、3、5、6、8号の5基である。このうち5号土坑は小破片ながら遺物の出土量は多かった。5号土坑は平面形、断面形共に出土した土坑中では最大であった。遺物の出土は覆土中位より上層で出土した。この出土遺物のレベルは、6号土坑を除いたいずれの土坑にも見られる特徴である。

出土土坑は平面形態により次のタイプに分類できる。

- ・落し穴に類似したもの……………4号、14号
- ・隅丸方形に近いもの……………7号、9号
- ・ほぼ円形のもの……………1号、2号、3号、13号
- ・不整形円形のもの……………5号、6号、8号、10号、11号、12号

そのほか、掘り込みの深いもの、浅いものの2タイプがある。

各土坑の性格については、物の貯蔵庫、墓などが考えられるが、明確な結論は下せない。ただ、6号土坑については、その平面形態、掘り込み面の深さと形状から判断して、縄文時代の風倒木と推定される。

調査の結果から、遺跡の付近が縄文時代の狩猟場として機能していた可能性が高い。しかし、落し穴と土坑が混在していること、各遺構の存続時期が確定できないこともあり、遺跡の環境復元が完全にできていない。今後もさらに詳細な分析を行う必要がある。

写 真 图 版



調査前風景(西より)



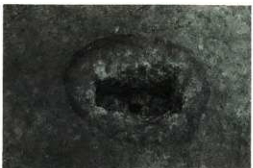
試掘調査風景(西より)



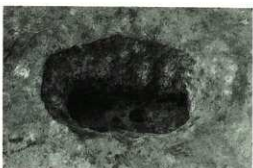
調査区全景(南東より)



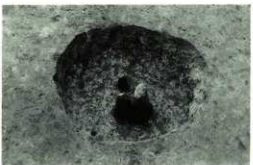
1号落し穴



2号落し穴



3号落し穴

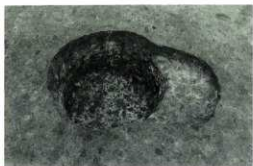


1号土坑遺物出土状況



2号土坑

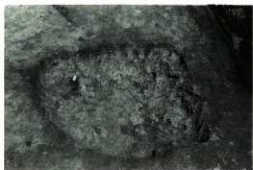
写真図版 2



3号土坑



5号土坑遺物出土状況



6号土坑



7、8、9号土坑



11号土坑



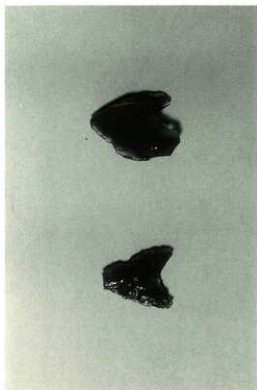
12号土坑



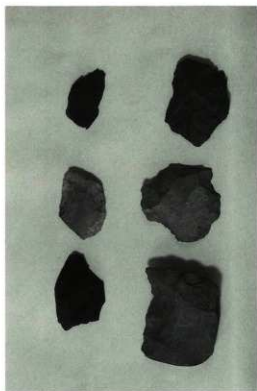
13号土坑



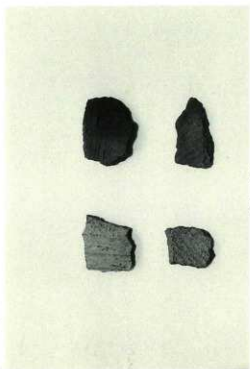
沼田北小児童遺跡見学



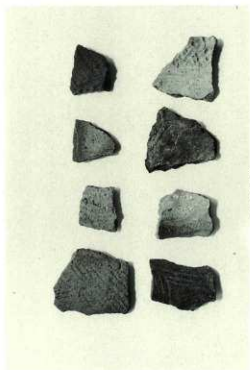
器五十五



器五十六



器五十七



器五十八

鎌倉台遺跡

水資源開発公団沼田総合管理所管理用宿舎
新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

印刷 平成2年3月22日

発行 平成2年3月26日

編集・発行 沼田市埋蔵文化財発掘調査団

群馬県沼田市西倉内町780

〒378 ☎ (0278) 23-2111

印刷 朝日印刷工業株式会社

群馬県前橋市元総社町67

〒371 ☎ (0272) 51-1212

